



No. 3 4

平成27年12月22日
発行 多治見市教育研究所

URL

<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。



子どもが考えること

多治見中学校 校長 加納 昭仁

私には二人の息子がいます。二人とも成人し、新しい家庭を築いています。ここまで来るのに親として振り返ってみると、それなりにいろいろとありました。二男が高校生の時、原因はともかく、高校生にもなっていい加減にしろという思いで叱ったことがあります。拳は挙げませんでした。声を荒げにじり寄ると、二男は私の顔面に手を出してきました。私にとっては怒りというより息子が私に手を出したことが驚きでポカンとしていました。数年後、そのときの疑問を晴らすべく、二男に「なぜ、あの時、手を出したんや」と問うと、「殺されると思った」と答えました。その答えを聞いて、「大事な息子を手にかけるはずがないだろ！」という思いがまず頭に浮かびましたが、すぐに、「へえー、そんな風に思ったのか」と、妙に納得した憶えがあります。長男は小さい頃からよく叱っていました。二男はそれを見て要領が良かったのか、あまり叱ったことがありませんでした。「高校生にもなって」とか「親が子どもに手をかけるはずがない」というのは、この時の二男の経験値からは判断できなかったのでしょうか。要は、私が頭ごなしに叱っていたということを思い知らされたわけです。「子どもが考えること」は、そのときどきの経験材料から子どもなりに判断して行動とします。それを大人の基準でものを言うと、得てして「頭ごなし」になるものです。

なぜ、冒頭に恥ずかしいようなことを書いたかという、新任校長のとき若い職員の週案に

あった文面が心に残っているからです。

この日、算数のテストがあった。採点をする
とY男の点数が極端に悪く、気になった。時計
の単元だが、時計の短い針と長い針を逆に読んでいた。授業の中では、そのような間違いをしているところを一度も見えていなかった。気になり本人に直接聞いてみた。「今、時計を読んでごらん」と彼に尋ねると、最初は黙っていたが、「テストのことですね」と私の考えていることをさとしたのか、そう答えた。「難しかったの？」と再度聞くと、しばらくずっと黙っていたが、**10分ほどして「わざと書いた」と話してくれた。**どうしてそのようなことをしたのか聞くと、**悪い点数をとったときの母親の反応が見たかった**と教えてくれた。Y男は、母親に**甘えたい気持ち**がかなり強と感じた。しかし、やるのが遅く、家庭では母親に叱られてばかりの状態である。Y男には、「そのようなことをしても、お母さんは悲しむだけだよ。お母さんは、あなたのことを思って言ってくれているんだよ」と話した。3年生にして今回のような行為をとったことについて、正直驚いた。決して頭ごなしに叱らないように、今回のようにまずは、**時間をかけて、話を聞き、本人の思いをしっかりと受け止められるようにしたい。**

経験材料の違いが子どもの行動の違いに出るものです。「頭ごなし」の判断ではなく、その子の背景に目を向けたいものです。

『仲間と共に学ぶ喜びを実感することのできる生徒の育成』 多治見市立南姫中学校

1 1月2日に、2年間の指定を受け多治見市教育課題研究発表会を行った。本校は全国学力学習状況調査や本校の独自調査から指導改善を行い、生徒の自尊感情を高めてきた。教育委員会からのご指導や、研究会に参加された先生方からのご意見も踏まえ、成果と課題を以下のようにまとめた。

(○は成果、●は課題を表している。)

【研究内容：指導計画の工夫】

1. 各単位時間の役割を明らかにした単元構造図の作成

- 授業の役割や、指導内容が明確であり、生徒も既習内容を活かしやすい。
- 生徒の実態を十分に分析して支援の手立てをもてるようになった。

2. 本時における「教えること」「考えさせること」を明らかにした指導案の作成

- 「教えること」「考えさせること」を明らかにしたことで、生徒への指導が明確になった。
- 「なぜ」、「どうして」を問うことで、生徒が論理的に説明する姿にもつながった。
- 思考力をより高めていくために、全体交流のあり方を今後も研究していく必要がある。

【研究内容：指導方法の工夫】

1. 一人一人に見通しをもった学びを生み出させるための指導の在り方

- 生徒の実態分析と単元構造図に意識の流れを位置づけたことから、必然性のある課題提示が可能になった。
- ICT活用により、生徒一人一人に、その時間の見通しをもたせることができた。

2. 基礎的・基本的な知識技能の習得及び、それらを活用させるための手立ての在り方

- 実態分析から、個に応じた支援策をもち、机間指導で的確に行えるようになった。
- ねらいと一体化した深め(ゆさぶり)の発問で、生徒の理解をより確かなものにするようになった。

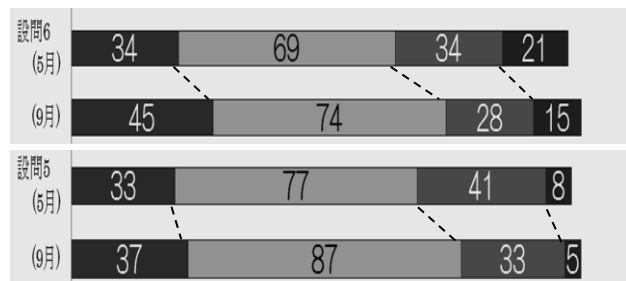
- 単位時間内に習熟するための時間をより確保し、さらに確実な定着を図る必要がある。

3. 自己の変容を自覚させるための評価の在り方

- 学習マップや振り返りシートを作成し、何を身につけてきたかを明確にしていることで、自己の変容を自覚することができるようになった。
- 各教科でさらに自己の変容を自覚することができる評価のあり方を考えて行く必要がある。

研究全体の成果と課題

- 実態分析に基づいた個への補足的支援を行うことで、5教科で70～80%を越える生徒が、「授業内容が分かるか」という調査に対して肯定的な回答をできた。
- 見通しをもたせる導入を行うことで、70%以上の生徒が「見通しをもって学ぶことができているか」という調査に対して、肯定的に回答できた。
- 「なぜ」「どうして」という発問を徹底することで、「根拠を明確にしているか」という問いに、70～80%以上の生徒が肯定的に回答できた。
- 本校の研究実践を行ってきたことで、自尊感情を問う発問(設問6)と学習意欲を問う発問(設問5)に対して、肯定的な回答できる生徒の割合が向上している。



先生方から頂いたご意見を参考にし、今後も生徒たちに力を付けるための継続的な指導、授業改善を続けてまいります。ありがとうございました。

『高まり、高め合う子』

多治見市立精華小学校

精華小学校では、「平成27年度 東濃地区教育推進協議会 小学校研究発表会・実践交流会」「平成26・27年度 多治見市教育委員会指定 多治見市教育課題研究発表会」を11月25日に行った。

これまでの研究の成果と課題について報告する。(○は成果、●は課題を表す。)

【研究内容1】指導計画の工夫

(1)「高まり」「高め合う」姿を生み出す指導計画の工夫

- 児童の実態を見届け、単元を通して付けた力と各単位時間の役割を明確にした指導計画を作成することで、見通しをもって主体的に学習することができた。
- 国語科において、読むこと領域と書くこと領域を交互に行う単元の構成にすることで、言語活動に主体的に取り組むことができた。
- 生活科において、単元の出口に1年生を招待する「遊ぶ会」を位置付けたことで、相手意識をもって主体的に取り組むことができた。
- 児童の実態に応じた指導計画であったかどうかを検証し、改善する必要がある。

【研究内容2】指導方法の工夫

(1)「高まり」を生み出すための導入の工夫

- 前時までの学習をもとに、新しい問題を提示したり、児童が「やってみたい」と意欲をもてるものを提示したりして課題を設定することで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。
- 音楽科において、児童と教師がやりとりをしながらモデルとなる範奏を作ることで、児童が見通しをもって主体的に活動することができた。

(2)「高まり」を生み出す場において、自らの考えをつくり表現できるための指導・援助の工夫

- 児童の実態を把握して、いつ誰にどんな支援をするのかを事前に考えることで、自分の考えをもち、自信をもって表現することができた。
- 家庭科において、掃除する前と掃除した後

の写真をiPadで撮影し、2枚の写真を並べて表示できるようにしたことで、掃除の効果が明確になるとともに、写真を指し示しながら自分の考えを伝えることができた。

- 個の実態を、より効率的に、よりの確に把握する方法を考える必要がある。

(3)「高め合う」場において、仲間の考えをもとに自分の考えを変容させるための指導・援助の工夫

- 机列表を活用して児童の学習状況を見届けることで、話し合いの適切な場面で適切な考えを広めて効果的に高め合うことができた。
- 理科において、全員が同一の条件で実験（わくわく実験）をした後に、自分の考えを確認するために一人一人条件を変えた実験（きつともっと実験）を位置付けることで、主体的に追究することができた。
- 社会科において、全体交流の前にホワイトボードを活用したグループ交流を位置付けたことで、複数の資料から読み取ったことや互いの考えをつなげて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
- 「分かりました。」など決まった言葉に頼らないで自分の思いを自分の言葉で伝えられるように、指導方法を改善する必要がある。

【研究内容3】評価の工夫

(1)「高まり」「高め合う」姿を実感できる評価・習熟のあり方

- 自分の変容を自覚できる評価カードを用いて振り返る場を設けることで、高まりを実感することができた。
- 外国語活動において、シールを使って相互評価をすることで、高まりを実感することができた。
- 算数科において、習熟の時間にもペアでお互いの考えを説明し合う場を位置付けることで、高まりを実感することができた。
- 評価や習熟の時間を確保する必要がある。

『心豊かにたくましく生きる子の育成』
 ～ 一人一人がいいきと安心して遊びこめる環境づくりと保育者の援助 ～
笠原小学校附属幼稚園

11月19日(木)に岐阜県公立幼稚園・こども園研究総会並びに研究大会、東濃地区公立幼稚園教育研究大会を開催した。本園では、昨年度よりなかよし遊びを通して本大会テーマに沿って研究に取り組んできた。以下のように報告する。

子ども一人一人が遊びに夢中になり、『やってみよう』と意欲的に自分の力を発揮できる場所としての活動を「なかよし遊び」と考え、充実した環境づくりと保育者の援助に重点を置いた。

【研究内容1 充実した環境構成】

- ① 子どもの発達を踏まえた遊びや異年齢での遊びの環境づくり
- ② 繰り返し遊ぶことのできる環境の工夫
- ③ 地域性や季節感を折り込んだ環境づくり
- ④ 十分体を動かして遊ぶ楽しさを感じられる環境づくり

【研究内容2 保育者の援助のあり方】

- ① 一人一人の興味や意欲を探りながら遊びを進めていく (探究心)
- ② 子どもの気持ちを十分に受け止め寄り添う援助 (自己肯定感)
- ③ 自分からやりたいことを見つけられる援助 (主体性)
- ④ 全身運動を十分楽しめる援助 (体の育成)

【成果と課題】 ○成果 ●課題

○ 研究主題「心豊かにたくましく生きる子」を実現するため、各年齢の出口の姿を明確にするとともに、その姿を育てるために、1年間の「発達の節目」となる時期を「期」と捉え、大きく4期に分け、各年齢の特性を踏まえた指導の在り方を考えることができた。

幼児期は、自我が芽生え、自己を表出することが中心の生活から、次第に他者の存在を意識し、他者を思いやったり、自己を抑制したりする気持ちが生まれ、同年代での

集団生活を協同的に営むことができるようになる時期へと移行していく成長過程を踏まえ、指導計画には1年間の各年齢の発達の段階を明確に示すことに繋がった。

- それぞれの年齢の発達の段階において、幼児にどのような経験を期待するのか見通しをもちつつ、次の時期の生活の流れや遊びの展開に必要な指導をすることができた。
- 異年齢の子どもと一緒に遊ぶ「なかよし遊び」を朝の活動として位置付け、各月の年齢毎のねらいや、各遊びにおける年齢毎のねらいに対する予想される子どもの姿を明確にすることで、職員全員が子どもの姿を共通理解しながら保育を展開することができた。
- 「SMILE」通信で、子どもの姿を日常のエピソードとして発信することで、子どもの世界のおもしろさや成長する姿を保護者へ伝える機会となった。また、共に子どもを育てようとする気持ちを育くむとともに保護者との信頼関係の築きに繋がった。
- 職員会などで子ども達の姿や捉え、気づきについて話し合うことで共通理解をすることはできたが、今後は更に子ども一人一人の内面の『理解』と『援助』を目指して、環境の再構成や遊びの展開を工夫していくとともに、子どもの内面を見るための『目』を養っていききたい。
- 保育者が子ども達にとって『遊びのモデル』になれるように気持ちを開きながら楽しむことを大切にしていきたい。
- 遊びの中で保育者の思いと子どもの思いのズレを捉えることで子どもの目線を意識し自分の保育の修正ができるように考えていきたい。

以上のようなことを意識しながら今後も実践をつんでいきたい。

第33回 岐阜県小中学校音楽教育研究会 東濃地区大会「多治見大会」
多治見市立養正小学校・笠原小学校・多治見中学校・笠原中央公民館アザレアホール

3年に一度の本研究会の県大会を、今年度、多治見市で開催することとなり、平成25年度からこれまでに渡って研究を深めてきた。以下に、その実践と大会を通して明らかになった成果と課題を報告する。(○成果 ●課題)

【県の大会テーマ】
楽しさ 確かさ 美しさを 求めて
～「明日の実践」につながる指導法を求めて～

	小学校	中学校
部会テーマ	音楽のよさを感じ、思いを豊かに表現する授業	音楽の仕組みを探り、追求の深まりを実感できる授業
研究内容	① 「共通事項」を手がかりに、子どもの学びが連続・発展する題材指導計画の作成 ② 自分の思いをもって、仲間と関わり合う学習活動の工夫	① 「共通事項」を足場に、子どもの学びが連続・発展していく指導計画の工夫 ② 追求の深まりを実感できる学習活動の工夫

【研究内容1より】

- ・題材における学びの連続性・発展性
- ・他学年との学びの連続性

<主な実践>

- (1) 題材のねらいに沿った、題材を貫く「共通事項」の明確な位置付け。
 - (2) 知覚と感受を分けた題材マップの提示や、共通点を焦点化した学習の足跡の掲示。
 - (3) 小・中の9年間における意図的・計画的な「共通事項」の指導と学習内容の発展性の位置付け。
- 題材マップ等の学びの足跡(掲示物)から、これまでに習得したことを生かして本時

の課題に向かう児童生徒の主体的な姿を生み出すことができた。

- 意図的・計画的な繰り返しの学習や学びの積み重ねによって「共通事項」に対する理解を深め、児童生徒に、歌唱や器楽の更なる表現の高まりへと発展させる力が身に付いた。
- 題材相互の関連性や系統性、発展性についての更なる熟考。

【研究内容2より】

- ・「共通事項」を要とした「わかる・できる」授業につながる課題提示のあり方
- ・小集団活動における言語活動の充実

<主な実践>

- (1) 自分たちの表現と範唱を聴き比べる活動を通して、「何を(どこを)」「どれぐらい」できるようにするのか児童生徒が見通しをもてる導入の工夫。
 - (2) 児童生徒一人一人の思いや意図を具体化し、可視化するための学習形態の工夫。
- 聴く視点を明確にしたことにより、音楽を形づくっている要素に気付き、本時工夫したい点を焦点化して課題を追求する力が身に付いた。
- ワークシートや付箋、強弱の程度の可視化等、教具の工夫によって、一人一人の思いや意図が仲間に伝わり、「やれそうだ」「やってみよう」という意欲へとつながった。
- 創意工夫の授業での教師の出場と評価のあり方。

『わかる』をキーワードとし、授業者、参観者、そして児童生徒が「わかる」ことを大切にしながら深めてきた研究である。「私も明日から実践してみたいです。」という参観者の声が、全音楽部員の心の支えにもなっている。

土曜学習「わがまち多治見大好き講座」

第5回「元気な多治見うながっスポーツの日」第6回「多治見ふるさとしごと塾」より

10月の土曜学習は、「元気な多治見うながっスポーツの日」にちなみ、世界を相手に戦ってこられたサッカー元日本代表、吉田光範さんを講師にお招きし、開催しました。



参加したのは、105名の小中学生。はじめは、ウォーミングアップをかねて、いろいろな動きを体験しました。ボールを首にのせてバランスをとる技、ドリブルをしながら急に止まったり動いたりする技、いろいろな動きを教えてくださいました。遊びながら自然に体の使い方やボール感覚が身に付く運動を体験することができました。

後半は、ミニゲームをしました。サッカー初めてという子が何人もいましたが、「楽しかったよ。」という感想や「ぼくは、今まであんまりスポーツをしていなかったけれど、このチャレンジスポーツに参加したらスポーツが好きになった。」という感想が届きました。経験のある子からも、「前までは、ただシュートをけることが楽しかったけど、味方にパスをすることも楽しいんだと思った。」「前よりも、もっとサッカーが好きになった。少し上手になった気がした。」という嬉しい感想が聞かれました。



また、「本当のサッカー選手に会えるなんてすごく嬉しかった。」「サッカー元日本代表の吉田さんにいいプレーをほめてもらって嬉しかった。」という感想を書いた子もいました。「お友達ができたよ。」と家で話した子もいます。初めて会った子と一緒に運動するという、普段はできない体験にもなりました。

11月14日に行った6回目の土曜学習に

は多治見ロータリークラブの方々をお招きし、「多治見ふるさとしごと塾」を行いました。多治見の第一線で活躍しておられるさまざまな職種の方からお話を聞いたり、仕事の一部を体験させてもらったりする講座です。この講座には、123名の小学生が参加しました。

陶芸家 安藤日出武さんからは、「土と共に生きる私のやきもの修行」と題して、やきものづくりにかける思いや貴重な体験をお話いただきました。「何十年、何百年たっても残るものを作るという熱意が心に残った。」という子、「おとなになったら、自分の仕事を一生けんめいがんばりたいと思った。」という子、それぞれ人として大切なことを学びました。



各ブースの先生になっていただいた多治見ロータリークラブの方々の職業は、なんと20種類もありました。子どもたちはその中から二つを選んで「しごと」を体験しました。どの仕事の勉強からも、すごいと思ったり、驚いたりしたことがたくさんあったようです。「自分の知らないところでいろんな仕事をしている人がいて、僕たちの生活ができているんだと思いました。」と書いてきた子や「夢がいっぱいになって全部やりたくなってきました。」と書いてきた子もいました。

最後に、多治見市出身のシンガーソングライター、佐藤梓さんの美しい歌声を聞き、講座を終了しました。

ご家庭からは貴重な体験ができよかったという感想を大変多くもらいました。「『楽しかった!』と言って帰ってきました。」「宿題の『あのね帳』をいつもの2倍以上も書いていて、印象が強かったんだと感じました。」というコメントもいただき、改めて多治見ロータリークラブの方々のご協力に感謝した講座でした。

